

## 編集後記

### Editor's Note

『日本研究教育年報』第24号をお届けします。大変残念なことです、これが最後の号となります。この雑誌が担っていた大学院生や修了・卒業生の投稿雑誌としての役割は、新たに大学院国際日本学研究院から発刊される論集である『東京外国語大学国際日本学研究』に引き継がれることになります。より大きくなった刊行の母体の元で、日本語・日本文化への研究を深める場として一層発展することが期待されます。

終刊号となった本年度の『日本研究教育年報』には、6本の研究論文と1本の実践報告のほかに、早津恵美子教授、旧日本課程の卒業生である蕭幸君さんのエッセイを掲載することができました。今年3月で定年退職される早津先生は本学で30年にわたって教鞭を執られて日本語学研究を牽引されるとともに、国際日本学研究院の院長としての重責も担われました。また現在台湾東海大学で教壇に立たれている蕭さんも、長く本学で修学され、谷崎潤一郎研究で博士号を取られた方です。終刊号にふさわしい方々からの玉稿をいただくことができたのは嬉しいかぎりです。

なお今後も『東京外国語大学国際日本学研究』に論文などを投稿していただければ幸いです。今年度中にプレ創刊号が発刊され、来年度の創刊号から論文を募集します。本誌と同様に電子出版となり、同じレポジトリに登録されています。投稿規定については、プレ創刊号に載せられた規定をご覧ください。ふるって力作をお寄せください。

2020年3月

『日本研究教育年報』編集委員会

柴田勝二（編集長 日本近代文学）

望月圭子（日英中国語対照言語学）

海野多枝（日本語教育学）

米谷匡史（日本思想史）

ラージ・ラキ・セン（日本近代文学）